

特集

自分のできることから

こころのバリアフリー について考えてみませんか？

12月3日から12月9日は障がい者週間です



八重瀬町自立支援協議会『地域資源マップ作り作業部会』において、5月～7月にかけて町内の病院やスーパー、コンビニ、福祉関係の事業所など78箇所（うち未回収4箇所）を対象に地域の社会資源の状況を調査しました。これは障がいのある方の社会参加の促進を図るとともに地域における障がいについての理解、啓発を図るための基礎資料とすることを目的に実施したもので、アンケート結果をもとにバリアフリー状況がわかる地域資源マップを作成しました。

近年車いすの専用駐車場や専用トイレ、スロープが病院やスーパー、コンビニに設置されるなどバリアフリーに対する関心が高まっていますが、まだまだバリアが目立つのが現実です。建物の構造や設備を改善するためにはたくさんの費用と時間を要しバリアフリーの普及はそう簡単にはいきません。また目や耳の障がいや心の障がいなどについてまだまだ理解されていない現状もあります。障がいの状態は一人ひとり異なるように障がいのある方々が感じている不便さや必要としている支援も一人ひとり異なります。障がいのある方が生活しやすい地域は誰にとっても住みよい優しい町と言われています。道路や施設のバリアフリーだけでなく心のバリアフリーも含めて、優しい町づくりについて自分出来ることから考えてみませんか？

自立支援協議会は、この地域にある相談支援事業をはじめとする、障がいをお持ちの方が抱える様々なニーズを吸い上げ地域の障がい福祉に関するシステムづくりの構築、発展を目指すための役割を果たす協議機関です。八重瀬町自立支援協議会では福祉、保健、就労、教育など多種多様な分野の方々に委員となっていていただき協議を行っています。

アンケート内容その①

バリアフリーの対応状況

※統計の集計には無回答は含めていません。

障がい者専用駐車場を
設けていますか



歩行に制限がある方に対して、事業所内で使う車イスを備えていますか



スロープは設置されていますか



障がい者専用トイレは
設置されていますか



アンケート内容その②

まちの人たちの 「対応」を聞きました

障がいのある方がお店（スーパーやコンビニ等）や病院・歯科医院などを訪れた際の「対応」を調査しました。その一部を紹介します。

■ 聴覚障がいのある方への対応



【スーパーやコンビニ等の対応】
筆談と身振り手振りで対応する

【病院・歯科医院等の対応】
筆談や図、画面において治療内容を説明したりする

■ 車いす利用者への対応



【スーパーやコンビニ等の対応】
手の届かない位置にある商品の手渡し、ドアの開閉の手伝い、手伝えることがないか確認する

【病院・歯科医院等の対応】
車やユニットへ移乗の介助
障がい物を避けて誘導する

■ 知的障がいのある方への対応



【スーパーやコンビニ等の対応】
間違った医薬品などの購入がないか確認をとる

【病院・歯科医院等の対応】
診療室（歯医者）に入ることが難しい患者さんもあるので本人に負担がないようにゆっくり時間をかけて診療や治療ができるように導く。
待ち時間を出来るだけ短くするようにしている。
できるだけ混まない時間帯にきてもらうように案内をしている

■ 精神障がいのある方への対応



【スーパーやコンビニ等の対応】
医薬品の購入の際、何の目的で購入されるのか細かく確認を行い、誤った使用を防ぐ。

【病院・歯科医院等の対応】
治療方針を決定する際、必要に応じて家族などにも治療内容を説明した上で行う。

アンケート内容その③

障がいの理解 について

今回のアンケートで障がい者への理解を深めるための勉強会等を実施したことがありますかの質問に対して7箇所の事業所が「はい」と回答しています。また、「いいえ」と回答した事業所に理由を確認すると「必要性は感じるが、勉強会の持ち方がわからない」と答えた事業所が19箇所ありました。このようなアンケート結果から勉強会の持ち方を指導することで障がい者への理解が深まる可能性があることが伺えます。

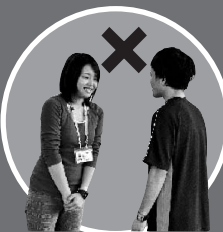
※統計の集計には無回答は含めていません。

聴覚障がいについて理解するために

おはよう

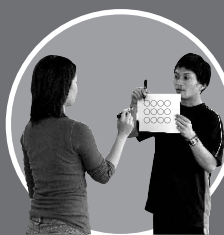


あー



ポイント② 話すときは、正面からはっきり口をあけて普通に話す
後ろから話しかけても分かりませんので正面から話します。また、一音ずつ区切るとかえってわかりにくくなります。

○ 明日、帰りに食事に行きますか？
× 明日食事に行こうと思っただけどうどこで会う？



ポイント① 筆談は要点を簡潔に
筆談は言いたいことを互いに文字で書いて伝えあうことです。「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「なぜ」「どのように」を明確に伝えます。

聴覚障がいの方は、音がまったく聞こえない人もいれば、聞こえても音の種類が聞き分けられないなど一人ひとり異なります。いろいろな音が聞こえないだけでなく、言いたいことを音声にして伝えることも難しいのでコミュニケーションが上手くできないこともあります。また、道路や歩道において車やバイクのクラクションが聞こえなかったり、買い物先で店員の説明が分からないなどの不便を感じている方がいます。

聴覚障がいの方が困っているのをみかけたら

視覚障がいについて理解するために

置か位置はここですか？
はいー



ポイント① まず、声かけ
突然、腕をつかんだりひっぱったりしないで、まず声かけから

視覚障がいの方が困っているのをみかけたら

障がいについて 「もっと」知ろう

知的障がいについて

知的障がいは発達期（概ね 18 歳未満）までに何らかの原因で脳の成長が充分でなかったり、脳の一部に損傷を受けた結果、知的な能力が年齢相応に発達せず、そのため社会生活能力などが遅れている状態をいいます。原因はわからないことが多く、誰にでも起こり得ると考えられます。

障がいが重度の場合、常に同伴者と行動される人もいますが、軽度の場合は会社で働き自立している人も大勢います。本人に合った環境と適切な支援があれば通常の社会生活を送ることに何ら支障はありません。

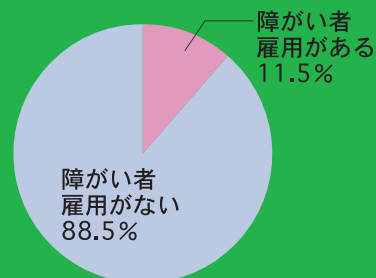
コミュニケーションについては、一度にたくさんことを言われると混乱するので、短い言葉で「ゆっくり」「ていねいに」「繰り返し」説明し、必要に応じて身ぶりや絵を用いるなどの工夫をして、内容が理解されていることを確認しながら話をします。

知的障がいがあると物事を理解したり自分の考えや感情を伝えることに困難さがあるためトラブルに巻き込まれることもあります。彼らは豊かなものをたくさん持っており、いろいろな形で社会に貢献しています。

アンケート内容その⑤

障がい者雇用について

今回のアンケートで障がい者雇用について確認をとったところ 9 箇所の事業所が障がい者雇用を行っていることがわかりました。（障がいの雇用人数 19 人）また、将来的に町内に住む障がいのある方の雇用の計画があると答えた事業所が 4 箇所。今のところそのような計画の予定はないが将来考えたいと答えた事業所が 20 箇所となっています。



※統計の集計には無回答は含めていません。

アンケート内容その④

障がい者週間について

12 月 3 日から 12 月 9 日は障がい者週間と定められていますが、どれくらいの事業所が知っているか確認をとったところ 21 の事業所が知っていると考え 48 の事業所が知らないと回答しています。

また、知っているとは回答した事業所で障がい者週間の中で何らかのイベントを企画したことがあると回答した事業所が 3 箇所。知らないとは回答した事業所で、今後何らかの企画をしたいと回答した事業所は 7 箇所でした。

具志頭地区

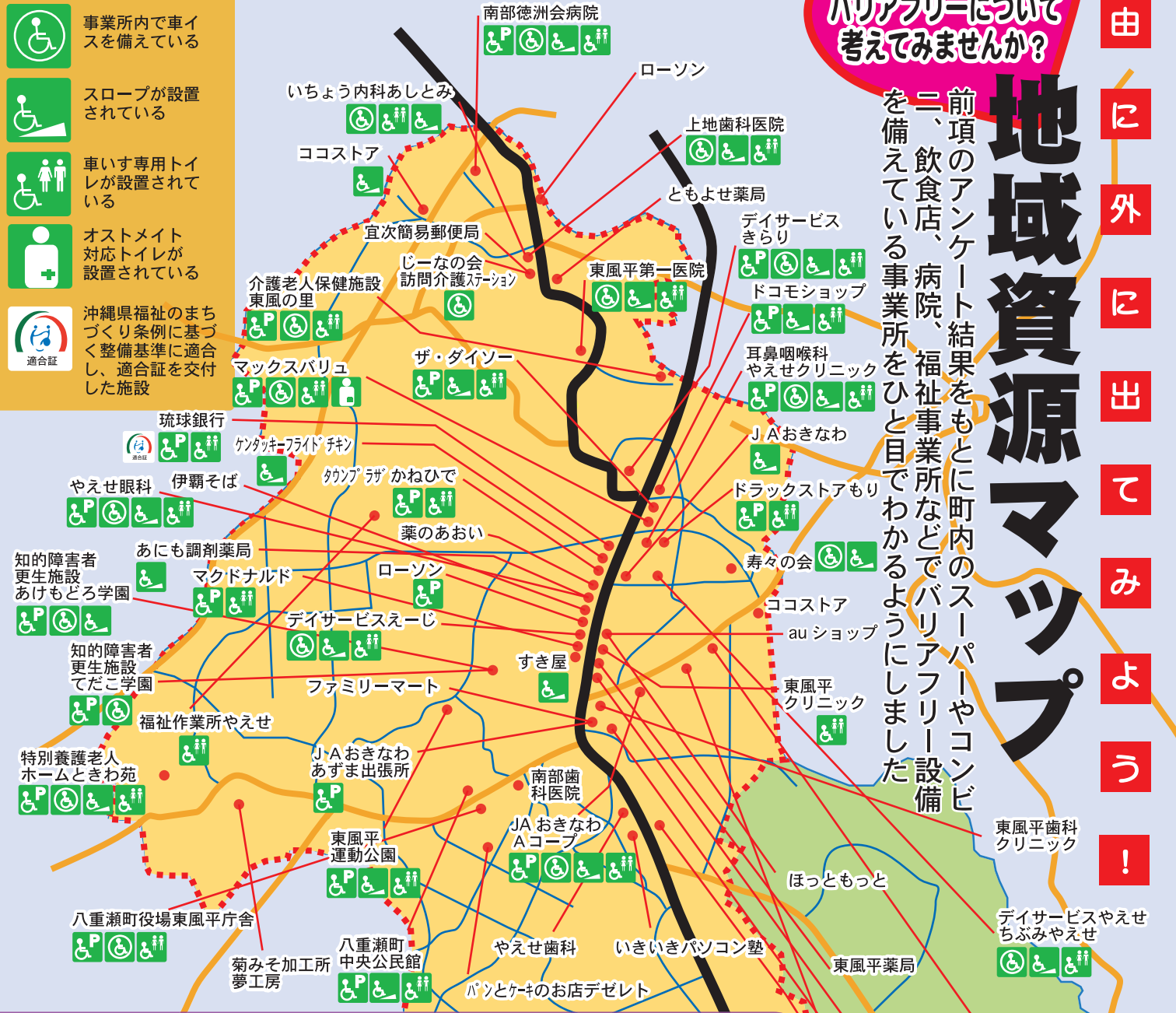
※地域資源マップの作成は 5 月から 7 月にかけて実施したアンケート調査（5 月 1 日基準）をもとに作成しております。



福祉マークの意味

- P 車いす専用駐車場を設けている
- 事業所内で車イスを備えている
- スロープが設置されている
- 車いす専用トイレが設置されている
- オストメイト対応トイレが設置されている
- 沖縄県福祉のまちづくり条例に基づく整備基準に適合し、適合証を交付した施設

東風平地区



精神障がいについて

精神障がいのある人は、病気の症状や薬の副作用などで、意欲の低下、周囲への関心の低下や心身が疲れやすくなったたりします。これらにより、仕事が続けられなくなったり、家事や育児に困難をきたしたりし、さらにこのような状態が、その人の役割や生きがいの喪失をもたすこともあります。

精神疾患（こころの病気）は、誰もがかかる可能性があります。精神障がいのある人との「普段と変わらない人付き合い」が、その人の安心につながります。安心は症状の安定にもつながると言われています。

車いすを利用する方について

車いすについて理解するために

車いすは歩くことが困難な人が移動するための装具です。ただし、車いすを使用している状態は一人ひとり異なります。例えば、事故などで両足が麻痺する脊髄損傷では両腕で車いすを操作しますが、両腕にも麻痺がある場合には電動車いすを使用します。

車いすの人が困っているのを見かけたら

ポイント① 安全を確認

車いすは少しの傾斜でも動いてしまします。押しはじめる時にも、押すのをやめる時にも声をかけて安全を確認してください。ブレーキがかかっているかどうか忘れずに。

ポイント② 段差での対応

段差を上げる時は前輪を上げ段差の上に乘せた後、ハンドル（にぎり）を持ち上げながら後輪をゆっくりと段差に乘せます。また、段差を降りる時には車いすを後ろ向きにしてハンドル（にぎり）をしっかり持ちながら後輪、前輪の順にゆっくりと車いすを降ろします。

ポイント③ 坂道での対応

後ろ向きで車いすを後ろから支えながらゆっくりと坂を降ります。

こころの
バリアフリーについて
考えてみませんか？

地域資源マップ

前項のアンケート結果をもとに町内のスーパーやコンビニ、飲食店、病院、福祉事業所などでバリアフリー設備を備えている事業所をひと目でわかるようにしました

さあ、まちの魅力を
探しに行こう



自由に出るよう！